



# 障がいの受容

～失うこと、そして新たな創造～

[講師]竹中 星郎 (精神科医、浜田クリニック)

山根 寛 (「ひとと作業・生活」研究会主宰、京都大学名誉教授)

岩崎 さおり (脊髄損傷当事者、会社員)

日 時:平成29年11月11日(土)9:00～12:40(受付8時30分～)

会 場:長崎リハビリテーション学院(長崎県大村市赤佐古町42番地)

参加費:1000円(学生無料)

主催:長崎リハビリテーション学院

申し込み:ido@nagariha.koyogakuen.ed.jp

電話:0957-53-7883(担当者 作業療法学科 井戸)

## 『さぎょうりょうほうしの知架羅（ちから） 2017』講演会

### 【日時】

平成29年11月11日(土)9:00～12:40

### 【会場】

長崎リハビリテーション学院（長崎県大村市赤佐古42番地）

### 【趣旨】

長崎リハビリテーション学院作業療法学科では『さぎょうりょうほうしの知架羅』と題し、4年前から講演会を開催してきました。毎回、作業療法の本質に迫るテーマを掲げ、作業療法を牽引している先生方そして作業療法を体験した当事者の方にご講演いただき、学生、臨床実習指導者、教員のそれぞれの立場から語り合うことで理解を深めてきました。

第5回となる今年は、テーマを「障がいの受容～失うこと、そして新たな創造～」と題し、毎回ご講演いただいている山根寛先生、『『老い』を生きるということ』『高齢者の喪失体験と再生』などの著者で精神科医の竹中星郎先生、事故により脊髄を損傷し下半身麻痺の障害を負うなかで、自分らしい人生を生き社会で活躍されている岩崎さおりさんにご講演していただきます。

人は病いや障害を負ったとき、それをどのように理解し受け止めているのか。私たちはその心をどう理解すればよいのか、そして何ができるのか。慢性疾患主流の時代の今、老いや死と共に誰しも他人事ではなくなってきた“病いや障害を負うこと”について改めて考える機会にしたいと思いません。

※『さぎょうりょうほうしの知架羅（ちから）』とは、作業療法士としての「知識」、担うべき「架け橋」としての役割、そのために必要な確かな「羅針盤」、それぞれの頭文字をとり知架羅としています。

### 【スケジュール】

- 9:00～ 9:10 開会およびスケジュール説明
- 9:10～ 9:40 「私の個人的体験～何を思い、どう歩んできたか～」  
岩崎 さおり（脊髄損傷当事者, 会社員）
- 9:50～10:50 「喪失体験と再生」  
竹中 星郎（精神科医, 浜田クリニック）
- 11:00～12:00 「病いを生きる、病いと生きる」  
山根 寛（「ひとと作業・生活」研究会主宰, 京都大学名誉教授）
- 12:10～12:40 シンポジウム「喪失から再生へ そこに寄り添う作業療法の視点とは」  
【司会】白岩 圭悟（「ひとと作業・生活」研究会）

### 【参加費】

1,000円(学生無料) ※一般の方も参加可能です。

### 【申込み】

氏名・住所を明記の上、事前にメールにてお申し込み下さい。  
ido@nagariha.koyogakuen.ed.jp ※10月20日(金)締め切り

### 【問い合わせ】

長崎リハビリテーション学院 作業療法学科 TEL 0957-53-7883